

言語学

注意:外国人受験者(日本の高校を卒業した者を除く)に限り、英語で解答することも可能です。

(1) 英語が「する」的な言語であるのに対し、日本語は「なる」的な言語であると主張されることがある。そのような主張の妥当性に関する自分の意見を、具体例を挙げながら述べなさい。

(2) 国際音声字母(IPA)では破擦音は2つの音声記号をタイで結んで表される。ひとつの破擦音を選んで、その破擦音と、その破擦音を表す前後2つの音声記号のそれぞれによって表される子音との調音上の違い(2組の違い)を、それぞれ100字程度で簡潔に説明しなさい。

(3) 次に示すのは、ある言語での名詞と形容詞の活用(いずれも単数形)を、国際音声字母を用いて転写したものである。下の問(a)(b)に答えなさい。

名詞	木(男性)	鮭(男性)	ビール(男性)	日(女性)	鼠(女性)	魚(女性)
主格	koks	lasis	alus	diena	pele	zivs
属格	koka	lafa	alus	dienas	peles	zivs
与格	kokam	lasim	alum	dienai	pelei	zivij
対格	koku	lasi	alu	dienu	pele	zivi
所格	koka:	lasi:	alu:	diena:	pele:	zivi:

形容詞「新しい」	男性不定形	男性定形	女性不定形	女性定形
主格	jauns	jaunais	jauna	jauna:
属格	jauna	jauna:	jaunas	jauna:s
与格	jaunam	jauna:jam	jaunai	jaunajai
対格	jaunu	jauno	jaunu	jauno
所格	jauna:	jaunaja:	jauna:	jaunaja:

(a) すべての名詞の活用形の基底形を、形態素境界を明記して示し、基底形から表層形を導く規則を書きなさい。なお規則を書く際は番号を振ること。

(b) 形容詞のすべての活用形の基底形を、形態素境界を明記して示し、基底形から表層形を導く規則を書きなさい。その際、(a)で述べた規則を再利用する場合は、番号のみを示すこと。

(4) 言語の変化においては、もともと独立語であったものが側置詞や接語となり、もともと側置詞や接語であったものが接辞となり、もともと接辞であったものが語幹と融合して分析できない一つの語形になる例がよく知られている。言語は普遍的にそのような方向へと変化するのか、あるいは必ずしもそうでないかについて、例を挙げて説明しなさい。

(5) 以下の言語学用語を簡潔に説明しなさい。

- (a) 類推と規則性 (analogy and regularity)
- (b) スタイル (style) (社会言語学における)
- (c) 定性 (definiteness)
- (d) 焦点 (focus) (情報構造における)

【以上】